

医薬保健学域 保健学類 検査技術科学専攻
【授与する学位】 学士（保健学）

大学（大学院）の目的
金沢大学は、教育、研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため、総合大学として教育研究活動等を行い、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

学類（研究科）の教育研究上の目的
医薬保健学域は、高齢化・少子化や疾病構造の変化を背景に、日常生活の質〔Quality of Life(QOL)〕を重視した患者本位の全人的医療の提供のため、関連する医学、保健学及び薬学の分野が相互に協力して、統合的な医療教育を行い、人間性を重視し、総合的な能力を有する高度医療人及び研究者を養成することを目的とする。保健学類は、保健学における基礎的及び専門的な知識・技術を修得し、豊かな人間性と高い倫理観を備えた高度な医療人としての看護師・保健師・診療放射線技師・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士を養成するとともに、保健学の発展を担う教育研究者を養成する。また、医療人としての社会的使命感を涵養し、現代社会及び将来の保健・医療・福祉における諸課題を探索し解決できるような、総合的で学際的な保健学の能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】 保健学類は保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与する人材を養成する。この基本方針に従い、以下の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士（看護学）、学士（保健学）の学位を授与する。 検査技術科学専攻は以下の3点の目標を掲げる。 1.臨床検査に関わる技術と知識を体系的に学修している。多様な専門知識や技術を修得している。 2.さらに、学内および学外の医療現場での豊富な実習を通じて、専門技術者としての仕事の実際や、医療チームの一員としての責任を学んでいる。 3.研究室への配属を通じて、将来の医療科学を担う者として幅広い科学的知識、実験技術などを学び、将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に、指導者、研究者となるための基礎も身につけている。 以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学修成果（下記【学生が身に付けるべき資質・能力】参照）を上げることが求められる。	【教育課程編成に関する基本的考え方】 本学類では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系的な構造を明示する。	【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】 保健学類は、「保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与すること」を基本理念とする。教育目標は、1) 現代社会の抱える諸問題を総合的に洞察できる能力の育成、2) 日本語・外国語による討議・発表能力の育成、3) 保健学における基礎的知識と専門的知識・技術の修得、4) 保健学の知識・技術を活用した課題探究能力の育成、5) 豊かな人間性と高い専門職業人としての倫理観など医療人としての社会的使命感の涵養、6) 学際的保健学知識の統合による教育・研究能力の育成である。 保健学類では、国家試験受験資格の取得のためのカリキュラム編成が行われており、このため募集単位は看護学専攻、診療放射線技術学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の5専攻を設ける。 検査技術科学専攻は、主に病気の診断や治療効果判定に対して重要な情報を提供する臨床検査を学習する学問である。本専攻では臨床検査に関わる知識と専門技術を体系的に獲得し、医療現場での実習を通じて医療チームの一員である専門技術者としての役割を学ぶ。また、研究室配属を通じて、進歩する医療科学を担う深い科学的考察や革新的技術などを取得する能力を養う。卒業時には臨床検査技師の国家試験受験資格を取得することができる。
【学生が身に付けるべき資質・能力】 1.保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得し、生涯教育を志向できる。 ・人間の構造と機能を系統的に理解する。 ・保健医療と福祉との関係性を説明できる。 2.医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 ・医療工学・医療情報学の基礎知識を有し、理解力、観察力、判断力をもつ。 ・臨床病理学として各種疾病を系統的に学修し、それぞれ疾患の病態を理解し医学検査との関連性を説明できる。 ・形態検査学として、病理検査・血液検査を系統的に説明できる。 ・生物化学分析検査学として、検体検査・臨床化学検査・遺伝子検査を系統的に説明できる。 ・病因・生体防御検査学として、病原微生物・血清免疫検査を系統的に説明できる。 ・生理機能検査学として、臨床生理検査・検査機器の取り扱いができる。 3.医療人としての使命・責任の自覚と職業・医療倫理医療制度の担い手として果たすべき使命と役割を理解する。 ・検査総合管理学として、検査機器の管理法・検査データの精度管理ができる。 4.専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 ・医療研究の手法を測定し、結果を集計し、それを発表し、論文としてまとめる問題解決能力をもつ。 ・臨地実習を経験して、講義、実習で修得した知識、技術を臨床レベルで対応できる。 5.幅広い教養及び国際性を背景に、現代の多様な国内外の人々のニーズに応え、有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となることを志向できる。 ・科学的思考の基礎能力を有し、人間と社会との関係性を踏まえ、患者さんと医療チームとのコミュニケーション能力をもつ。 6.英語による国際的なコミュニケーションを含み、多様な人々との人間関係を築くコミュニケーション力を修得する。	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】 1. 教育内容 1年次から履修する「専門基礎科目」を出発点とし、「医療工学・医療情報学」、「臨床病理学」、「形態検査学」、「生物化学分析検査学」、「病因・生体防御検査学」、「生理機能検査学」、「検査総合管理学」の専門科目について、基礎からそれらの応用までを体系的に学ぶ。なお、専門分野で開講される科目の大部分は国家試験受験に必要な必須科目であるが、各自の希望に応じて他専攻の科目について自主的に履修計画を作成することができる。 2. 教育方法 3年次からは、少人数からなるいくつかの研究グループに分かれ、学生各自が関心を持つ専門分野を「卒業研究」において、より深く探求する。3年次では、学域GS言語科目が必修であり、専門教育科目の内容を英語にて学修する。また、最終学年では臨地実習を経験し、臨床レベルで対応できるよう知識および技術を高める。 【学修成果の評価】 （1）授業科目に対して成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。 （2）学士課程での学修成果は、「卒業研究」や「臨地実習」を含めた修得単位数によって行う。 （3）卒業研究の審査は、論文審査及び口述試験により実施する。	【求める人材】 ・病める人に対する医療のために、知識や専門技術を高めて、社会に貢献する情熱を持つ人 ・医療科学の分野で新しい技術や知識を創り出す熱意を持つ人 ・臨床検査技術の進歩に貢献し、将来のリーダーとなる夢を持つ人 【選抜の基本方針】 ■一般選抜 基礎学力に加え、数学・理科及び英語の学力を重視する。 ■KUGS特別入試（学校推薦型選抜） 基礎学力に加え、口述試験で医療人としての適性の評価並びに調査書等の出願書類による総合評価をする。 ■帰国生徒選抜 理科と英語の学力に加え、成績証明書（調査書）による総合評価をする。 ■国際バカロレア入試 口述試験により理系能力及び医療人としての適性の評価並びに提出書類（志願理由書）等による総合評価をする。 ■私費外国人留学生入試 学力検査により本学類の修学に必要な基礎学力を有しているかを評価し、口述試験を通じて、志願者の日本語能力（対人コミュニケーション能力を含む）、英語能力及び本学類で修学することや医療人として職務を遂行することの適格性及び適性を評価する。 【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】 種々の臨床検査技術における基礎となる理論や科学的考察には、数学、物理、化学及び生物学の考え方や知識が必要で、高等学校においてこれらの教科の履修を望む。また、情報収集及び発信に必要な英語の力を求める。